広報 就実学園

編集発行
学校法人 就実学園
法人事務局

〒703-8516
岡山市中区西川原1-6-1
TEL(086)271-8117

感謝と期待を込めて

学長　桑原　和美

2026年3月をもって終える3年2期にわたった学長任期の間には、どれを取り上げてよいのか迷うほど多くの出来事がありましたが、その中から3つに絞って述べたいと思います。

まず頭に浮かぶのは1期目就任後の約3年間、前例のない対応を迫られた新型コロナウイルス感染症です。2020年の年明けからコロナウイルスが国内外で一気に蔓延し、未知のウイルスへの不安と感染拡大防止への対応に世界中が躍起になっていた時期でした。大学内では、まず新入生への教育をどのようにスタートさせるか、そして在学生への教育をどのように継続させるのかが最大の課題となりました。入学式や新年度のオリエンテーションが中止や延期になり、急遽オンラインによる指導・教育への切り替えが行われました。机や椅子に貼られた大きな〝バツ〟のテープや、制限のある中で初めて登校した新入生たちの緊張した様子は今でも忘れることができません。そして、あらゆることを手探りで進めざるを得なかった状況下での教職員間の協力と個々の努力に本学の底力を感じ、今もなお感謝の気持ちでいっぱいです。

そうしたコロナ禍もありながら、6年間、大学として中長期的な視点で取り組んできたのが、内部質保証体制の構築でした。大学はそれぞれに特色のある人材育成の目的や異なる教育手法をもつ学部の集合体ですが、同時に大学全体として建学の精神に基づく教育理念のもとに、教育・研究活動、大学運営が組織的かつ適切に行われていることを自ら検証し、改善した結果を社会に示すことが求められています。特に、大学が社会に信頼されるためには、日ごろの教育の質を高めることが重要であることに疑問の余地はありません。この点検・評価・改善の重要な柱となるのが、一つに「中期計画」であり、そして学部や学科、全学共通教育における教育プログラムです。時間をかけて全学的に検討し、2025年4月からスタートした新たな「中期計画」（2025・4～2030・3）は1年目を終えようとしています。そこでは、「大学の魅力を活かしたブランド力の強化」「学生一人ひとりの確かな成長力を実現する教育」「研究活動の活性化・研究成果の発信・社会連携の推進」「学生への細やかな支援と満足度の高い学生生活の実現」「堅実な財政基盤と組織的ガバナンスの強化」を重点目標として、全部で19のマスタープランと40のアクションプランを設定しており、5年後のゴールに向けてこれらを毎年確実に推進していくことが重要となります。また教育プログラムについては、各学部学科等のディプロマ・ポリシーについて学生の達成状況を可視化するシステムを導入したことにより、一人ひとりの学修状況を把握し、指導に活用できるようになりました。「中期計画」と教育プログラムはどちらも外部の委員による評価を受けており、今後は指摘された問題点に対する確実な改善とその効果を検証することで内部質保証の実質化が進むものと考えます。

最後に、今年度で72年間の歴史に幕をおろす短期大学について、感謝の思いを込めて述べたいと思います。ご存じのように、1953年に家政科から出発した短大は、12年後の1965年に幼児教育学科を設置し、翌年に現在の西川原の新校舎に移転して着実に発展を続けてきました。1972年に設置した国文科と英文科を基礎に7年後の1979年に就実女子大学を開学したことが現在の大学に繋がる重要な節目となりました。本学では学長は大学と短期大学の両方を兼任しており、学長になって初めて知ることも多く、異なる二つの組織を運営していくことの難しさを感じることもありましたが、学生の前向きなエネルギーと明るさに短期大学の気風を実感する機会が多くあったことも事実です。また、同窓会の会合に出席させていただいた際には、当時の会長や運営の方々の人柄も重なり、大変明るく活気のある会だったことが印象に残っています。70周年の記念誌や卒業後20年経った卒業生の招待、現役学生への支援など様々なアイデアとセンスの良さに感心することもしばしばでした。約2万3千人の卒業生を社会に送り出し、地域に就実学園の存在感を着実に定着させてくれた短期大学の延長線上に現在と未来の大学と学園があると、これまで短期大学に関わって下さったすべての方々に感謝を伝えたいと思います。

副学長時代を含めて長く就実学園の理事や評議員として、大学だけでなく他の学校種を含めた学園全体の運営に関わる多くを学ぶ機会を与えていただきました。2026年度からは井上新学長の下で、教職員全員と学園が力を合わせてさらなる発展を築いていかれることを祈念しています。

大学・短大の部

さようなら・ありがとう「就実やんちゃキッズ」ファイナル　幼児教育学科

幼児教育学科の名物「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでぇ～」は2026年1月24日(土)、第133回目の公演をもって終了しました。

最終回は、287名（大人141名、子ども146名）のご参加をいただき大盛会となりました。1学年のみとなった私たちを支援するため、たくさんの頼もしい本学科卒業生や恩師も駆けつけてくださいました。終演後、リーダーの挨拶では会場から大きな拍手が沸き起こり、この取り組みが多くの人々に支えられ、愛されてきた活動であったことを改めて実感しました。

学生たちも最後のやんちゃキッズを盛り上げようと、多忙な短大生活の中でそれぞれの演目に全力で取り組み、楽しい会になるように準備を整え、地域の皆様をお迎えできたのではないかと思います。特に、「子どもたちの安全」を第一に学生たちにも厳しいルールを課し、これまで一度の大きな事故もなく最後の1人まで子どもたちの明るい笑顔を見送ることができたことは、この活動を学科全体で支え続けてきた成果であると思います。

結成当時から代々引き継がれたこのボランティア精神は、保育者として活躍する卒業生たちの心に語り継がれ、また、子どもたちの心にも温かい思い出となって残ることでしょう。

長らくのご支援を賜りありがとうございました。幼児教育学科一同、心より感謝申し上げます。

最後の実習授業―調理実習Ⅳ・工芸実習Ⅱ（陶芸）　生活実践科学科

「生活」を豊かにすることは、学科の大切な学びの目標のひとつです。実践しながら学ぶことのできる実習科目で、作品づくりに熱心に取り組みました。

「工芸実習」では、前期は「ガラス工芸」、後期は「陶芸」を著名な工芸作家の先生から直接学び、自分だけの作品を毎週作成しました。「陶芸」の実習では、基礎の「菊練り」から始まり、絵付けや電動ろくろを使う本格的な技法まで実践しました。焼成した作品は、「食」を彩る実用的なもの、オブジェとしてもユニークな大作など、個性豊かなものに仕上がりました。各自の手料理を盛り付ける課題を通じ、「器」と「食」の魅力を体験的に学ぶことができました。

「調理実習」では、行事食として、クリスマスの本格的なメニューを実践しました。クリスマスケーキやローストチキンを調理、クリスマスパーティの華やかな食卓を整えることができました。一年次には、苦手意識のあった学生も、二年間にわたり実習を履修し、グループで協力し、飛躍的に技術が向上しました。各自の成長を実感しながら、手作りの料理を味わうことができました。

これらの「実習」科目は、「家政科」に淵源をもつ本学科を特色づける教科です。短期大学での学びは今年度をもって最後となりますが、卒業生が将来にわたり「生活」をより豊かなものとしてくださることを期待します。

長期実習説明会　開催　経営学科

2026年1月30日(金)及び2月12日(木)、13日(金)に学部の1年生を対象に「長期実習説明会」を開催しました。

国際経営コースでは、留学プログラムを実施します。説明会ではコースを選ぶために、TOEICやGPAの基準が設けられていることの説明のほか、提携先の16大学の概要、住まいや必要な金額など多岐にわたる内容を伝える必要があるため、12月から回数を重ねて行っています。1月は上級生からの経験を話してもらいました。

地域経営コースでは長期インターンシップを行います。説明会では派遣先企業の担当者（欠席の場合は教員）が実習プログラムを説明し、学生に関心を持ってもらうとともに、通勤や昼食などの疑問を尋ねるなどして、実際の勤務のイメージを持ってもらいました。当日は10のブースに分かれ、企業の担当者に、1時間に2回の説明を実施していただき、学生が関心を持っている企業を聞き逃さないよう工夫しました。

経営実践コースでは、協力企業から提示された課題に学生が主体となって解決策を提案するプロジェクトに参加します。説明会では教員、協力先担当者がプロジェクトを巡る状況、課題を示し、学生がなにに取り組むかを説明しました。

学生はこれらの説明会で得た情報などをもとに、まずは国際経営コースを選択するか検討し、その後、2つのコースそれぞれの希望を考え、担任と相談して、5つの候補を提示して選定過程、配属結果を待つこととなります。

低学年から自身のキャリアを考える キャリア支援科目開講!!　薬学科

就実大学薬学部のオリジナルプログラムであるキャリア支援科目が今年度より開講され、その第一弾として「地域医療と薬局経営」を薬学部2年生57名が受講しました。本講義は、地域医療の最前線で活躍する薬局薬剤師から、人々の健康を地域で支える仕組みを学ぶとともに、薬局経営の視点にも踏み込み、教科書だけでは学ぶことのできない「薬局薬剤師の底力と可能性」を探究することを主眼とした、受講者自身の未来像を提示する授業です。

授業では、岡山県内の薬局経営者2名と福岡県のドラッグストア経営者1名を講師に迎え、地域を支える薬局の役割や、今後さらに広がる薬剤師の職能の可能性について、グローバルな視点も踏まえながら実例を交えてご講義いただきました。地域ごとに異なる地域貢献や薬局経営のスタイルに、学生たちは新たな気づきを得ていました。

さらに、地域医療を多角的に捉え実践する力を身に付けることを目的として、グループワークにて薬局来局者に向けた健康増進・疾病予防の啓発ポスターを作成し、発表会を行いました。作成したポスターはすべて「しゅうじつ薬局」に掲示され、多くの来局者の方々にご覧いただきました。

本講義が、低学年の段階から薬剤師としての将来像を主体的に考える契機となることを願っています。

「心理学の5つの力」　心理学科

心理学部では、心理学の学びを通じて獲得することを目指す能力や技能を「5つの力」と表現しています。その5つの力は多角的人間理解力、対話力・協働力、自己洞察力、論理的思考力、データ収集・分析力です。5つの力を磨くため、授業内で用意されている取り組み以外に、学生が主体的に行う活動を支援しています。具体的には、交流会やミニ研究会、ボランティア活動や大学祭の企画などです。

交流会では、普段は話すことが少ない他学年の学生や他の資格の学生との交流の場を設けることができました。ミニ研究会では、現場で活躍する卒業生を招いて、現場での実践や大学での学びとのつながりを話してもらい、学生がリアルな体験に追随できる機会を得ました。また、別の研究会では、学生が教育支援センターに伺い、中学生の生活と進学の支援に触れる機会を得ることができました。学外でのボランティア活動は、学生が大学外の体験から自分に何ができるかを知る場としての役割を考えています。ボランティアは教育学部の頃から盛んに行われていましたが、心理学部でも5つの力を涵養する活動として重視しています。

心理学部では、学生が学内外の活動を通じて、自分自身を見つめ直すことで5つの力を身につけることができると考えています。今後も学生の活動を支援していきたいと考えています。

研究がつなぐ、学びのバトン ―卒業論文発表会を開催　教育学科

教育学部教育学科では、2026年2月4日、卒業論文発表会を開催しました。一年間の研究成果が結実する場であると同時に、新たな問いが芽生える出発点ともなる一日となりました。

発表は7会場に分かれ、複数のゼミナールが合同で実施。本学科は、幼児教育から小学校教育、特別支援教育まで対象領域が広く、さらに文系・理数系・体育系・芸術系と分野も多彩です。専門の異なるゼミが同じ会場で発表することで、研究テーマだけでなく、方法や検証の進め方、論の構成の違いにも触れられる機会となりました。

当日の運営は3年生が担当。司会や計時を務めながら、4年生の発表に耳を傾け、自らの研究の方向性を見つめ直します。2年生は、この春から所属するゼミの特色や研究課題への理解を深め、1年生は数年後の自分の姿を思い描きながら真剣に聴講しました。

質疑応答では、専門の枠を越えた視点から活発な意見や問いが寄せられ、発表者にとっても研究をさらに深化させる貴重な機会となりました。指導教員からの講評はもとより、学生同士の率直な感想や助言が交わされる姿は、本学科ならではの学びの風土を象徴しています。

学年を越えて学び合うこの発表会は、知と志を受け継ぐ本学科の大切な伝統となっています。

「地元企業について学ぼう！SOUREKI就活カフェ with 小西伸彦先生」の開催　総合歴史学科

2025年12月3日(水)、総合歴史学科が主催する「地元企業について学ぼう！SOUREKI就活カフェ with 小西伸彦先生」を行いました。株式会社天満屋の人事の方々を講師にお招きし、企業の歴史や採用のポイントなどをお話しいただきました。

本企画は、天満屋に勤務されたご経験のある小西伸彦特任教授のご協力を得て実現しました。

天満屋の歴史や経営理念に関する説明では、様々な困難を乗り越えて成長してきた天満屋の軌跡を学ぶことができました。また、天満屋の各部門の仕事の内容や求める人物像の紹介では、「人の心に寄り添う力」を特に大事にしながら社員一人ひとりが働く様子が伝えられ、天満屋が地域の人々に信頼され続ける理由を知ることができました。

当日は、天満屋に就職が内定している経営学科の4年生も参加してくれました。企業研究だけではなく、自己分析や他己分析を行って就職活動に臨んだことなど、自身の経験に基づく就職活動に関する助言がありました。今回の「就活カフェ」は本学科にとって初の試みでしたが、1年次生から大学院生まで、学科の枠を超えて幅広い参加がありました。参加した学生は熱心にメモを取りながら説明を聞き、講師の方々に率直な質問や感想を寄せ、関心の高さがうかがえました。学生にとっては、就職活動への意識を高める得難い機会になったと思います。

Global Holiday Partyと特別講義『異文化理解と多文化共生』　実践英語学科

2025年12月5日に学科行事Global Holiday Partyを今年も開催しました。このイベントは、一年も終わりに差し掛かった時期に日頃の勉強疲れを吹き飛ばそうと、10月のハロウィーン、11月の感謝祭、12月のクリスマスをすべて一度にしてしまうという欲張りなものです。

ネイティブの先生方と英語で楽しく話しながら、欧米の食文化を体験すべくグレービーソースのかかったマッシュドポテトやローストチキンを食べ、参加した学生たちはそれぞれ楽しい時間を過ごせたかと思います。

年が明けた1月15日にはグレゴリー・スミス講師をお招きして"World War One: The History and How its History Continues to Shape Our Modern World"と題した特別講義を開催。この講義は、岡山県で住む外国人の方や海外居住経験のある日本人の方をお招きして「異文化理解や多文化共生」をテーマにお話しして頂くものです。参加する学生の多くにとっては、自分の知らない海外の歴史や文化、また自分自身が知らなかった日本について学ぶ良い機会となっています。今後も学科の学生たちに様々な形で学びの場を提供していきたいと思います。

「就職活動支援の会」と「教職課程の会」　表現文化学科

2026年1月24日(土)に、就職に関する二つの会を開催いたしました。

一つ目の「就職活動支援の会」は、本学科卒業生をゲストに迎え、社会人としての生活や業務内容、就職活動時に意識したこと等についてお話をしていただく会で、今年度で5回目を迎えました。今回は2023年3月に本学科を卒業され、株式会社トマト銀行にお勤めの岡本祐衣さんと、2024年3月卒業でつばめガス株式会社勤務の木村広行さんをお招きし、本学科での学びや就職活動にまつわる体験、そして現在の業務のやりがい等についてお話しいただきました。次に、マスコミ関係に内定をいただいている4年生の久本芽生さんに就職活動について報告していただき、最後は全体で質疑応答を行いました。

二つ目の「教職課程の会」は、教職を目指す本学科の学生が、学年をこえて教員採用試験に向けた情報交換や交流を行う会です。まず4年生が今年度の教職採用試験の合格体験を報告したあとに、本学科卒業生で三豊市観音寺市学校組合立三豊中学校教諭の藤本有紀さんに、教師をしていて嬉しかったことや、日々心掛けていること等についてお話しいただきました。会が終了した後にも積極的に質問・相談がなされ、活発な交流が行われました。

表現文化学科では、一般就職や教職を目指す学生を、このような会を通じて積極的に支援しています。

高校・中学の部

高校卒業証書授与式

令和8年3月2日、就実高等学校第78回卒業証書授与式が厳かに挙行されました。

開式に先立ち、3年間の思い出ムービーを保護者の皆様にご覧いただきました。文化祭や体育祭をはじめ、遠足や修学旅行などの学校行事の様子や、日常の何気ない一コマに加え、先生方からの旅立ちを後押しするメッセージの数々が映し出され、溌剌としたお子様の姿に感動もひとしおだったことと思います。

今年度は卒業生592名ということで、例年よりも在籍数が多く、会場のフロアも隙間なく椅子が用意されました。また、2階席まで満席になるほど、多くの保護者の皆様にご参列いただきました。加えて、学園関係者をはじめ、多くのご来賓の皆様のご臨席を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

各コース代表に卒業証書が授与された後、秋山校長の式辞がありました。人生において失敗や挫折をしたとき、反省は必要だが後悔は必要ないという趣旨のお話をされました。後悔は過去に囚われることでしかなく、何も見出せないのに対して、反省は未来志向であり、目標を達成するための方法や人との関係性などについて修正し、次の成功につなげていく前向きな姿勢と言えます。これから新しい一歩を踏み出す卒業生にとって、心に響く言葉になったのではないでしょうか。

「仰げば尊し」に替わり、「旅立ちの時」を歌いましたが、小学生のころからずっと歌い続けてきた馴染みの歌だけに、力強いすばらしい合唱でした。最後に3年生全員で心を一つにして、合唱できたことはよい思い出になったことと思います。

そのほかにも新しい試みとして、ピアノではなく、吹奏楽部による「君が代」と「就実学園歌」の伴奏にいたしましたが、重厚感があり大変好評でした。

退場の際、赤いコサージュをつけた卒業生が、みんな晴れやかな笑顔で胸を張って歩く姿に、これから始まる新しい生活への期待や気負いのようなものが感じられ、胸に熱いものが込み上げてきました。今後のご活躍を期待しています。

伝達表彰式

令和7年度の表彰伝達式を2月27日に校長室で行いました。今年度の表彰者は次のとおりです。

日本私立中学高等学校連合会会長表彰に伊井豪さん、岡山県私立中学高等学校保護者会連合会会長表彰に秋山真緒さん、岡山県高等学校体育連盟専門部優秀選手に、バレーボール部の仙波こころさん、ソフトテニス部の近坂優衣さん、ワンダーフォーゲル部の栗原杏菜さんが選ばれました。また、学校長表彰として、第79回国民スポーツ大会少年女子バレーボール競技で優勝した高等学校女子バレーボール部の選手10名と第32回全日本日本ジュニアソフトテニス選手権大会U20ダブルスで優勝したソフトテニス部のペアがそれぞれ表彰されました。

学校長のからの表彰伝達および祝辞ののち、学年団と共に学校長を囲んで記念撮影をしました。

節分祭

2月3日の昼休みに毎年恒例の節分祭がありました。校長先生、年男の先生、生徒会執行部で豆をまきました。今年は豆だけでなく多くのお菓子も1号館広場でまきました。いくつかのお菓子には鬼のマークがついており、ついたお菓子を手に入れた人には景品もプレゼントしました。中学生も高校生も大勢集まって、とても盛り上がりました。邪気をはらい一年間の無病息災を願ったり、受験生は本番に向けてラストスパートをかけることができたり、それぞれにとって節目の一日になりました。

スキー・スノーボード教室

1月4日～6日の三日間、兵庫県にあるハチ高原スキー場で開催されました。今年度は中高生合わせて64名の生徒が参加し、ウィンタースポーツに興じました。参加者の半数以上が初心者で、初めての種目に苦戦しながらも着実に成長していきました。夜にはみんなで雪合戦をしたり、かまくらを作ったりと一日中雪と戯れていました。二日目の午後には全員が一人で滑られるようになり、思う存分スキーやスノーボードを堪能することができました。ホテルでの食事も鴨鍋や兵庫周辺でしか出回らない希少な豚肉を用いた鍋などおいしい料理に大満足でした。今回の研修では、スキーやスノーボードの技術を習得するだけでなく、普段活動することのない他学年や他コースの生徒たちがスポーツを通して交流し合える有意義な三日間となりました。

探究発表会

高校一貫コース

高校一貫コースでは中学校の時から探究活動を積極的に取り組んでいます。中学校で身につけた情報収集や分析の技能を活かして、高校でも様々な社会問題の解決に挑戦しています。高校1年生では「地元岡山を活性化させる」をテーマにグループ活動に取り組みました。岡山の文化や経済について調査して良い点・悪い点を理解し、岡山がより良い地域になる方法を考察しました。2月に実施した発表会で、自身の探究内容だけではなく他グループの発表を聴き、岡山の魅力を再認識する良い機会となりました。2年生は、6月のグローバルリーダー研修の事前学習として、シンガポールの社会問題を解決する探究活動に取り組みました。問題解決を目指す上で、「自分自身がやりたいこと」「社会的ニーズがあること」「社会的意義があること」を意識し、具体的な解決策を考えました。シンガポールでは、現地の方にアンケートをするなど、実際に訪れて初めて得られる情報などを収集し、より良い探究になるように取り組みました。4月に企業の方と保護者に来ていただき中間発表会を行いました。研修前後の6月末には、シンガポールで得た情報を加えた最終発表会を行い、自身の成果を英語で発表しました。今後も、探究活動で経験したことや学んだことを活かし探究力を高め、さらなる成長につながることを期待しています。

中学特別進学コース

3月5日㈭中学特別進学コース1、2年生は探究発表会を行いました。1年生は関西研修において学んだ探究の基礎を、2年生は関東フィールドワークで広げた知見を活かし、発表に臨みました。各チームが「点字ブロックは進化する」や「パワハラ撲滅」、「ジェンダー平等を目指して」といったテーマを設定し、問題提起、考察、解決策の提案という流れで発表を行いました。改善の余地はあるものの、それぞれがユニークな視点でテーマに対する考察を行っており、提案された解決策が実現すれば今の社会問題の解決に貢献しそうなものばかりでした。今後も、身近に潜む疑問点に「なぜ？」と考えられるよう、探究心を養ってくれることを願っています。

全国大会出場

陸上競技部

滋賀県で開催された第79回国民スポーツ大会に、岡山県代表として出場した高橋佑奈さん。当初は4×100ｍリレーと100ｍハードルの2種目に出場予定でしたが、大会1週間前、100ｍに出場予定だった他校の選手が負傷欠場となったため、急遽100ｍにも代理として出場することになりました。

インターハイのリベンジ、そして欠場した選手の悔しさを晴らすべく挑んだレースでは、予選から見事な快走を披露。見事6位となり全国で初めての入賞という輝かしい成績を収めました。これまでの支援に対する感謝を「走り」で証明してくれた高橋さん。卒業後のさらなる飛躍が期待されます。

剣道部

第79回国民スポーツ大会剣道競技少年少女の部に、近藤真央さんが岡山県代表として出場しました。近藤さんは、「中国ブロック大会で優勝し、本大会では8年ぶりに5位入賞することができました。大会までの道のりでは、思うような結果が出ず悔しいこともありましたが、仲間や先生方、支えてくれる家族のおかげで、最後まで諦めず戦うことができました。この経験を通して、努力を重ねることや仲間と支え合うことの大切さを学びました。これからも感謝の気持ちを忘れず、さらに成長できるよう努力していきたいです。」と話してくれました。

春の全国大会出場

【高校体操部】
○第42回全国高等学校体操競技選抜大会
令和8年3月24日～25日
長野県ホワイトリング

【高校ソフトテニス部】
○第60回全日本私立高等学校選抜ソフトテニス大会
令和8年3月23日～25日
横浜国際プール
○第51回全日本高等学校選抜ソフトテニス大会
令和8年3月28日～30日
愛知県名古屋市　日本ガイシホール

【中学ソフトテニス部】
○第37回都道府県対抗全日本中学生大会
令和8年3月26日～28日
伊勢市市営庭球場・三重県営サンアリーナ・三重交通Gスポーツの杜伊勢
体育館

【吹奏楽部】
○第38回全日本高等学校吹奏楽大会
令和8年3月21日～22日
静岡県・アクトシティ浜松　大ホール

令和8年度入試を振り返って

高校入試は、一月二十二日、二十三日に選抜1期を、二月十七日に選抜2期を実施しました。出願者はのべ五三七八人で、令和七年度入試とほぼ同じ出願者数でした。就学支援金の拡充があやふやな状況での入試でしたが、専願での志願者が増え、本校への期待の大きさを実感しています。

中学入試は、十二月に1期入試を、一月に2期入試を実施しました。数年前から学習塾での指導が教科型から適性検査型へ大きく転換していることに対応するために、1期入試・適性検査型に特別進学コース（ハイグレードクラス）を新設しました。県立中学校の定員減少のタイミングと重なったことが影響したのか、特別進学コース（ハイグレードクラス）の出願者は増えました。

少子化への影響は避けられない中で、今後も受験者数および入学者数を安定的に確保するために、ブランドイメージの強化と、効果的な広報活動はもちろん入試制度の検討も必要だと考えます。

小学校の部

【校内研究】探究の、その先へ ―第３回授業研究発表会

２月10日㈫、「第３回授業研究発表会」を開催いたしました。当日は、北は北海道から南は佐賀県まで、全国各地から多数の教育関係者の皆様をお迎えし、校内は一日中、未来の学びを創り出す熱気と子供たちの活気ある声に包まれました。

本研究会では、探究学習の集大成として計10本の授業を公開いたしました。子供たちが自ら問いを見つけ、仲間と対話しながら答えを探していく生き生きとした姿に、多くの参会者から温かい励ましのお言葉をいただきました。また、各分野の第一線でご活躍されている佐藤靖泰先生、三宅貴久子先生、藤澤大地先生を講師にお招きし、午前の分科会から午後のワークショップまで一日を通してご参加いただきました。授業の質を高めるための専門的なアドバイスを多数頂戴し、大変有意義な学びの場となりました。続く特別講演会では、前多昌顕先生より「生成ＡＩとこれからの学び」についてお話しいただき、最新テクノロジーを思考のパートナーとしてどう生かすかという視点を共有していただきました。

この充実した一日を何よりも支えてくださったのは、受付等で多大なるご協力をいただいた保護者サポーターの皆様です。家庭と学校が一丸となる「チーム就実」の絆の強さを改めて実感いたしました。今回の貴重な気づきを大切に、教職員一同、挑戦と成長を続けてまいります。

【個人探究】WONDER Time 発表会

今年度のWONDER Time（個人探究）発表会は、子供たちが、自分が本当に興味をもったことを出発点に、問いを立て、調べ、考え、まとめ、その成果を発表する場となりました。

今年は発表方法を選択制にした学年もあり、スライド発表、ポスター形式、実演型など、それぞれのテーマに合った多様な形での発表が行われ、昨年度よりも内容の深まりと表現の工夫の両面で大きくパワーアップしていました。中でも印象的だったのは、20分間の発表時間の中で何度も相手を変えながら伝えることに挑戦していた姿です。同じ内容を繰り返す中で、少しずつ自信をつけていく様子が見られました。

特に素晴らしかったのは、参観された皆様からの「どうしてそう考えたの？」といった質問に対し、その場で一生懸命考えながら答えていた姿です。準備してきた内容を一方的に伝えるだけでなく、問いを受け止め、自分の言葉で応答しようとする姿は、まさに探究の大切な一場面です。「昨年度より中身が濃くなっていますね」というお声もいただき、本校が大切にしている「Communicator」としての姿が確かに育っていることを実感いたしました。

【縦割り探究】QUEST Time Festival

２月28日㈯には、QUEST Time Festivalを行いました。2024年度よりスタートした縦割り活動（QUEST Time）も２年目となります。

異学年でチームを編成し、１年間を通したプロジェクトに挑戦する中で、意見がまとまらず悩む場面もありました。しかし、子供たちは対話を重ね、互いを理解しようとする姿勢を大切にしながら課題を乗り越えてきました。今年度は「外部と繋がる、深める、発信する」をテーマに掲げ、専門家のお話を伺ったり、実際の現場を訪れたりと、学びを学校の外へと大きく広げてきました。

Festival当日は１年間の挑戦の集大成として、各グループが劇やクイズ、ゲームなどを工夫しながら、自分たちの学びを堂々と表現しました。上級生が下級生を温かく導き、下級生が勇気をもって意見を発信するといった縦割りならではの成長が随所に輝いており、仲間と創り上げた発表には自信と達成感があふれていました。ここで育まれた主体性や協働する力は、子供たちの大きな財産となります。

【受賞】「届けよう、服のチカラ プロジェクト」

２月12日㈭、東京・上野の国立科学博物館 講堂にて、ファーストリテイリング社主催の「届けよう、服のチカラ プロジェクト」アワード2025が開催されました。本年度は全国から769校がプロジェクトに参加した中、わずか６校の優秀校に選出されるという、大変光栄な結果となりました。

A-3チームの活動は、まず校内の呼びかけからスタートし、次第にその輪は学園内のこども園や大学へと広がりました。さらに、校外学習である「探究Day」では、県南エリアの６つの施設を訪問。地域の方々と直接触れ合い、チラシを配ったり、回収箱を設置させていただいたりと、活動を広げていきました。

今回の受賞は、活動の実績はもちろんですが、保護者の皆さまとの連携や、地域との深いつながりを改めて感じられたこと、そうした「人の輪」の広がりこそが、評価に繋がったのではないかと思います。

【おわりに】

本校が目指す「かしこく」「やさしく」「たくましい」子供たちの姿は、日々の探究活動を通して確かな形となって表れています。来年度も、本校の充実したICT環境を最大限に生かし、子供たちが世界とつながり、主体的に学ぶ未来志向の教育をさらに力強く推進してまいります。

こども園の部

お茶会（参観）

《５歳児》

二月二十六日㈭、こども園で最後のお茶会がありました。一年間のお茶のお稽古で教えてもらったことを保護者の方に見てもらいました。朝から「お母さん喜んでくれるかな？」「お父さんにお茶を飲んでもらうのが楽しみ」と張り切っていました。

いざ、保護者の方を目の前にすると子ども達は、少し緊張している様子でしたが、自分が点てたお茶を保護者の方が喜んで飲んでくれている姿を見て、とても満足そうな子ども達でした。

日本の伝統文化に実際に触れ、体験することは子ども達にとって貴重な機会です。日本文化に親しみ、畳の感触やお作法の大切さ、お茶の香りや味など五感を使った豊かな学びなどにつながったようです。

就実小学校との交流会

《４歳児》

一月二十七日㈫、就実小学校一年生との交流会がありました。とても楽しみにしていた子ども達は、初めての小学校に期待を膨らませながら向かいました。校長先生、教頭先生、先生方や就実小学校の一年生に歓迎してもらい嬉しそうな表情が見られました。一年生が司会を務め、校内の様子や行事など紹介してくれる学校紹介動画に興味津々でした。その後に、一年生のお兄さんお姉さんとペアになり伝承遊びを楽しみました。コマ回しやお手玉、あやとり、羽根つきなどに挑戦している時には優しく声をかけ、手を添えて丁寧に教えてくれました。緊張していた表情も次第に和らぎ、自然な笑顔と会話が生まれました。関わりは一層深まり、最後には一年生手作りのメダルを首からかけてもらい、握手やタッチで名残を惜しみました。帰園後にはサプライズでもうひとつのプレゼントが用意されていました。中身は一年生が折ってくれた様々な折り紙で、心のこもったプレゼントに子ども達は大喜びでした。

生活発表会！

《３歳児》

一月二十三日㈮に生活発表会をしました。幼稚園部になって初めての発表会で、お家の方に見てもらうことを喜び、楽器遊びや歌、劇遊びを発表することができました。楽器遊びや歌では、ピアノに合わせてリズム打ちをして綺麗な音色を奏でたり、大好きな曲を元気いっぱい歌ったりしました。劇遊びでは、子ども達のお気に入りの絵本を元に、登場する動物やセリフ、動きなどを子ども達と一緒に考えました。それぞれの役になりきって、友達と一緒にセリフを言ったり、動いたりして、表現することを楽しみました。子ども達の成長した姿がたくさん見られた生活発表会でした。

初めての小学校での活動でしたが「まだ遊びたい！」「また来れる？」ととても期待感が高まっている様子でした。刺激がいっぱいで楽しい経験ができました。

ミニミニ発表会

《２歳児》

二月十七日㈫に発表会ごっこをしました。こあら組の子ども達は、歌や鈴を使った楽器遊びをしたり、忍者に変身して先生と一緒に劇遊びをしたりする姿を観てもらいました。歌や楽器遊びでは、手遊びを交えて歌ったり、リズムに合わせて楽しく鈴を鳴らしたりしました。劇遊びでは、子ども達のお気に入りの絵本『じゃじゃじゃのにんじゃ』を題材に、こあら組忍者に変身しました。葉っぱに隠れる「隠れ身の術」や綱の上を渡る「綱渡りの術」、飛び石を渡る「ジャンプの術」などいろいろな忍術を披露しました。最後は分身の術や手裏剣の術で天狗の大泥棒と戦いましたが、天狗と仲良くなり一緒に岡山城を守っていくと誓ったこあら組の忍者達でした！普段と違う雰囲気に恥ずかしくなる様子もありましたが、忍者になりきって体を動かしたり、自分の名前を言ったりする姿をお家の方に観てもらい、とても嬉しそうな子ども達でした。

《１歳児》

今回の発表会ごっこでは、子ども達の大好きなお化けになりきって遊ぶ姿や可愛く言葉のやり取りをする姿を保護者の方に見てもらいました。小さいお化けやジャンプお化けに変身して、お化け公園で運動遊びをしたり、お化けの曲に合わせて手遊びやリズム体操をしたりしました。お面をもらう場面では、名前を呼ばれると「はーい」「ありがとう」と上手にやり取りすることができました。たくさんの人の前でドキドキしながらも、返事をしたり、表現をしたりと可愛い姿を見てもらうことができました♪

《０歳児》

ぱんだ組の子ども達は、かわいいひよこに変身し、手遊びをしたり、大好きな曲に合わせ、マラカスを鳴らしたりする姿を見てもらいました。途中、保護者の方と一緒に「バスにのって」「おとなこうえん」という触れ合い遊びをしました。お家の方に一対一で抱っこをしてもらい、体を揺らしたり、高い高いをしたり、最後はギュッと抱きしめてもらいました。みんなニコニコ笑顔でとてもいい表情をしていました。

普段の生活の中で、子ども達が楽しんでいることを披露したり、保護者の方と一緒に触れ合うことを楽しんだりすることができました♪

就実高校女子バレーボール部
この1年の健闘を称えて

2026年1月の「春高バレー」準優勝をはじめ、この1年の3つの全国大会で、いずれも3位以上という優れた成績を挙げた就実高校女子バレーボール部の健闘を称える会が2月11日（水・祝）に開かれ、出席者を前に選手たちは、結果に満足することなく、いっそう成長することを誓いました。

女子バレー部は、「春高バレー」準優勝のほか、去年夏の高校総体で3位に、また県選抜チームの主力として臨んだ国民スポーツ大会では優勝し、2025年度の3つの全国大会で優秀な成績を挙げました。

この1年の健闘を称えて開かれた会には、卒業生のほか、岡山県バレーボール協会や学園の教職員など、あわせて110人あまりが出席しました。

はじめに選手たちは、出席者の拍手に迎えられて登壇。西畑美希監督と仙波こころ主将から、ひとりずつ紹介がありました。得意なプレーや試合でのエピソードだけでなく、練習を離れた日頃の様子も交えたユーモアたっぷりな内容で、中には、特技のけん玉や歌を披露する選手もいるなど、和やかな雰囲気でのスタートとなりました。

このあと西井泰彦理事長から、「スポーツで勝ち負けを重ねながら成長するように、人生でも喜びや苦難を経験しながら人は育ちます。高い目標に向かって頑張る選手の皆さんは、私たち大人に、その教訓を実践して見せてくれていると感じます。」との言葉がかけられ、あわせて学園からの表彰状と記念品が贈られました。

また選手を代表して仙波主将が挨拶に立ち、「高校総体での3位はうれしかったですが、それに満足せず、〝基本に忠実に〟という心がけを大切に、自分たちの力を信じて取り組んだことが結果となりました。

これからも成長していきます。」と力強く誓いました。

会では、選手と出席者が親しく談笑する時間もあり、楽しくにぎやかな場となりました。

学園表彰

▽学園賞表彰授与
高校・中学（8・2・11）
高等学校女子バレーボール部
第78回全日本バレーボール高等学校選手権大会準優勝による表彰